行事ピックアップ

ノースアジア大　全国1位の就職率 ― 経済学部・法学部

このほど、『AERA MOOK 就職力で選ぶ大学2018』(朝日新聞出版)において「学部別実就職率ランキング」が発表され、ノースアジア大学の両学部が、全国の国公私立大学568校の中で「第1位」を獲得しました。

学年に応じたキャリア教育などの手厚い支援が、全国トップクラスの高い就職率へとつながりました。本学では、今後も、学生を手厚く支援し、さらに充実した教育を行います。

【2017年学部別実就職率ランキング】

○ 商・経営・経済学部 部門
　ノースアジア大学 経済学部　全国1位(3年連続)

○ 法学部 部門
　ノースアジア大学 法 学 部　全国1位(2年連続)

ノースアジア大 明桜高校　大学・高校の総合グラウンドを人工芝にリニューアル

写真は、完成後のイメージです。

ノースアジア大学と明桜高校は、総合グラウンドを改修し、全面人工芝へのリニューアルをすることになりました。

大学・高校の総合グラウンドは、体育の授業や一般の部活動、大学・高校のサッカー部が使用します。今回、採用した人工芝は、2014年のカナダで開催されたFIFA女子ワールドカップや北京オリンピックなどにも採用された高品質な人工芝です。

工事は9月下旬から始まっており、大学・高校ともに平成30年度春の完成に向けて作業を行っています。

ノースアジア大 看護福祉大　ホームページをリニューアルへ

現在、ノースアジア大と秋田看護福祉大のホームページリニューアルを進めています。

スマートフォンなどの普及によって、パソコン以外からホームページを閲覧する機会が増えています。

このような社会背景に対応すると共に、ホームページ内の情報を整理し利用する方が必要な情報をすぐに取り出せるホームページを目指しています。

明桜高校　4年連続東北大会へ ― 高校吹奏楽部

明桜高校吹奏楽部は、全日本吹奏楽コンクール第59回秋田県大会で、課題曲『スケルツァンド』と自由曲『バレエ音楽「サロメの悲劇」より Ⅲ.海上の誘惑 Ⅳ.稲妻の踊り Ⅴ.恐怖の踊り』を演奏し、金賞を獲得。4年連続となる東北大会出場を決めました。

明桜高校　東北大会5年連続ベスト4 ― 高校女子サッカー部

明桜高校女子サッカー部は、全日本高等学校女子サッカー選手権東北地域大会で、5年連続でベスト4に進出しました。

この大会で本校は、シードとして2回戦から出場。初戦は、2点差を追いついて、PK戦の末に勝利するなど、各試合で粘り強く、最後まで戦い抜きました。

さくら SAKURA No.251
平成30年1月31日 編集・発行 学園広報担当 〒010-8515 秋田市下北手桜守沢46-1 Tel. 018-836-6527 Fax. 018-836-3321 URL. http://www.northasia.jp/

さくら

学校法人ノースアジア大学
【学園広報誌】
251号
January

【特集】秋田看護福祉大学
　就職率9年連続 100%達成の理由
【特集】明桜高校
　異なる文化に触れる国際交流

●第10回ノースアジア大学 文学賞授賞式・記念コンサート開催
●行事ピックアップ

NORTH ASIA UNIVERSITY SINCE1953

特集 就職率9年連続 100%達成の理由

― 秋田看護福祉大学　就職支援 ―

秋田看護福祉大学は第1期生の卒業以来、看護学科・福祉学科ともに就職率100%を達成しています。また昨年度は、各国家試験において全国平均を上回る合格率となりました。今回の特集では、本学ならではの学生一人ひとりまで目の行き届いた、きめ細かい就職支援を紹介します。

学生からの相談に親身になって応える教員と職員

「本学では、講義や演習、実習、インターンシップなど、全ての授業や関連事業がキャリア支援につながるものだと考えています。教員が、皆、共通認識をもって学修指導や進路指導にあたっていることが強みです」と話すのは、就職委員長の佐藤純子教授。

入学する学生は、国家資格の取得、保健・医療・福祉分野への就職といった明確な目標を持っています。教員が、大学での経験全てがキャリア支援につながることを念頭において学生指導にあたっていることは、学生にとって心強い支援になります。

学生が円滑な大学生活を送り目標を実現させるため、看護・福祉両学科では、学年ごとに「クラス担任」を割り当てています。「クラス担任」は、入学後から卒業まで原則変わることはありません。就職に関することはもちろん、大学生活の中で不安や疑問に感じていることを随時相談できるようにしています。また、定期的に学生一人ひとりと面談を行い、必要であれば、複数の教員や保護者も交えた話し合いの機会を設けています。このような学生と「クラス担任」の面談は、学業成績や健康面などを考慮して、複数回行うこともあります。3年生からの学生支援の中心は、ゼミナール担当教員になりますが、必要に応じて、「クラス担任」と連携しながら大学生活全般を支援しています。

Point①　実務家教員の助言

本学には、専門分野の知識を生かして実際に現場で活躍した教員が在籍しています。

保健・医療・福祉の現場での豊富な経験を持つ教員からの助言や指導は、実践的な内容を理解するうえでも、学生にとって大きな強みとなっています。

Point②　一人ひとりへの目配り

本学では、入学直後から、教員と職員が学生一人ひとりと向き合う、充実した環境を整えています。学生への支援は、少人数制の利点を最大限に生かして“Face to Face”で展開。学生の考え方や希望などを考慮したうえで、就職活動の支援だけに留まらず、大学生活全般でも、手厚い支援を行っています。

Point③　教員と職員との綿密な連携

教員と職員（就職係）は、学生から得られる就職活動の情報をしっかりと共有しています。学生の就職状況は、就職委員会での報告から、看護・福祉両学科で行われるミーティングを通して共有しています。そのうえで、学生の支援、指導を行っているため、教職員が共通の意識を持って学生を支援する体制ができています。

採用試験に応じたきめ細かな模擬面接

学生のエントリーシートや履歴書の添削、模擬面接などの就職活動に関わる実務の部分は、主に就職係が担当しています。採用試験で重視される面接試験への対策は、学生からの要望で随時行っています。

模擬面接では、これまでの採用試験の傾向に合わせて、学生が自分の言葉で表現ができているか、学生の回答に一貫性があるのかなどをチェックします。学生が答えられなかった項目は、面接を担当する教職員の間で共有しています。また専門知識を問う面接は教員が担当し、学生が自分の考えを伝えられるように対策をしています。

模擬面接終了後には、担当の教職員から「この点が良かった」「ここはもう少し改善が必要だね」といった具体的なアドバイスをします。学生は、その中から、新たな自己アピールのポイントに気付くこともあります。このほかにも、就職係は、学生が事務室に来た際、採用試験が近くなった時などには声を掛けて、就職活動の状況に合わせて一人ひとりにきめ細かにアドバイス。採用試験を受ける学生が少しでも不安を解消できるように支援をしています。

入学直後から卒業後の姿を描く

就職ガイダンスで1年生から支援

本学は、これまで就職ガイダンスを３年生の後期から始めていましたが、今年度から、１年生を対象としたガイダンスも開催することにしました。これは、低学年からインターンシップ（職場・就業体験）に参加する学生が年々増えていることを考慮したためです。インターンシップに参加する学生には、事前の指導として、卒業後に働く職場であることの意識付けのほか、職場の環境を理解してもらうことを行っています。この体験で得たことは、その後の保健・医療・福祉施設での実習などで生かされています。インターンシップを経て実習を経験した学生からは「実習を経験して、専門職で活躍したいとの思いが強くなりました」「大学で得た知識が実習内容と結びついて、理解が深まりました」といった感想が聞かれました。

全学年が参加する合同就職面談会

本学では就職支援の一環として、合同就職面談会を開催しています。この面談会には４年生だけではなく、３年生以下の学生も参加することができます。どのような業界や職域があるのかを知り、勤務内容を具体的にイメージするなど、就職活動に役立つ情報を収集することができる貴重な機会となっています。

手厚い支援は卒業まで続く

国家試験終了後に、学生から進路を変更する希望が出された場合にも速やかに対応しています。その際、教職員が連携して学生の内定先の条件などの確認と要望を把握し、志望する進路への新たな提案や個別相談を行います。本学では、学生の進路変更などがあっても将来の目標が実現できるように、内定の獲得まで手厚い支援を続けています。

手厚い支援が希望進路の実現につながる ～ 4年生インタビュー ～

佐々木 恭輔 さん
（看護学科4年）

模擬面接で自分の強みを見つけて内定へ

普段の自分自身を振り返り、考え方や行動を変えることができました。また、先生からの支援を受ける中で、これまで気が付いていなかったことを、客観的な視点でアドバイスをもらいました。結果、その内容を自身の強みとして就職活動でアピールし、内定を獲得することができました。

安心して就職試験を受けることができた

先生との模擬面接で対策ができました。模擬面接では、話し方や視線についてアドバイスをもらいました。自分が話すことに集中していた点を、面接官の視点から指摘してもらい、改善することができました。当日は、安心して試験に臨むことができ、志望した進路を実現できました。

三浦 菜都実 さん
（福祉学科4年）

特集 異なる文化に触れる国際交流
― 明桜高校での台湾姉妹校との交流

明桜高校では、生徒たちが世界を身近に感じられる教育環境を整えています。現在、台湾2校、韓国1校との間で姉妹校の提携をしており、各校との交流を通して、生徒たちは異文化への理解を深めています。

生徒・先生が相互に訪問し、活発な交流を行う
お互いを尊敬する気持ちが生まれる

10代で経験する国際交流は、生徒たちの成長と国際感覚を促す貴重な機会と言えます。そのため本校では、姉妹校との間で生徒・教員が交流する機会を増やすなど、国際的な視野を広げるための取り組みを行っています。平成29年3月には、新たに、鶯歌（おうか）高級工商職業学校（台湾）との交流協定を締結しました。

現在は、淡水高級商工職業学校（台湾）との間で、交換留学のほか、生徒・教職員による訪問団を毎年受け入れています。また、淡水商工、鶯歌工商の両校に、本校の教員・生徒が修学旅行で訪問するなどして交流をしています。平成29年11月には、硬式野球部の2年生が台湾に遠征し、鶯歌工商との間で試合を行うなどして親睦を深めました。

このように、本校では、スポーツなどを含めて国際交流を展開しています。生徒たちの交流は、言葉の壁を超えて、相手を知ろう、仲良くなろう、といった前向きな姿勢が見受けられます。

花田富二夫校長は「生徒たちは、英語やジェスチャーを交えて、懸命に自分の意思を伝え、相手が言いたいことを理解するように努力しています。そういった中から、心が通じ合い、お互いを尊重する気持ちが生まれていきます。お互いに心が通じ合う交流が大事なのです」と、思いを語ります。

SNSなどを活用し、末永く続く交流

本校と淡水商工それぞれに留学した生徒の多くは、帰国後も、手紙、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）を利用し、留学先で出会った友人やホストファミリーとの間で交流を続けています。

本校では、留学生が校外で文化体験などを行う際にも、クラスの生徒が付き添います。

そのため、生徒間のつながりは強くなっています。留学後も良好な関係を築き、交流を続けていることが、本校の国際交流の大きな特色です。留学先での思い出が心に響くものであったことが分かります。留学を終えて帰国した生徒たちは、大きく成長を遂げています。日本を離れ、これまでとは異なる環境に身を置いた経験が、生徒たちの視野を広げているようです。

明桜高校では、これからも、国際交流をはじめ、充実した教育環境を生徒に提供し、社会で活躍できる人材の育成に努めます。

留学を通して、積極性が身に付いた ― 留学体験者のインタビュー

写真［右］古村 詩乃 さん（3年）
［左］高橋 知李 さん（3年）

自分の考えを積極的に伝えるようになった

「積極的な性格になれたことが、一番成長できたことです。自分の考えを声に出して、相手にしっかりと伝えることができるようになりました。これからも、自分の思いを相手に伝えられるように、努力していきたいです」

高橋 知李 さん

英語でのコミュニケーションが楽しくなった

「とにかく、留学先の生徒たちと積極的に交流することを心掛けていました。現地では、英語でコミュニケーションをとる機会が多く、楽しみながら英語の力を身に付けることができました。帰国した今も、現地の友人たちと英語を使って楽しく交流しています」

古村 詩乃 さん

卒業生 本当の自分を見つけることができた
根田（こんだ） 文平（ぶんぺい） さん（淡江大学外国語学部 4年）

明桜高校で経験した台湾への留学がきっかけとなって、台湾の大学へ進学する卒業生、日本の大学を卒業後に台湾の大学院へ進学する卒業生が出てきています。その一人、根田文平さんに話を聞きました。

高校入学後に、台湾研修のことを知り、参加を希望しました。アメリカなど英語圏への留学の希望は持っていましたが、経済の発展が著しい中華圏への理解も非常に重要なのではないかと考えたからです。台湾での留学時に、たくさんの台湾人が日本語を勉強していることに驚き、日本語教育について興味を持ちました。大学４年生の今は、教育実習もあり、台湾の小中学生を対象に、日本と台湾の異文化理解について教えています。

今思えば、高校で経験した交換留学は、これまでの人生で一番思い出深いものでした。好奇心旺盛な時だったからこそ、言語や文化の吸収が早かったと思います。当初は友達と違うことをすることに対して抵抗を感じていましたが、あの時の経験があったからこそ、物事を恐れない冒険心を持って行動できる自分へと成長することができたのだと思います。本当の自分を見つけることができた高校生活に感謝しています。

将来は、台湾での大学生活で得たことを生かし、台湾で起業することを考えています。そこで、台湾のビジネススタイルを学ぶために、一度、就職しようと思います。そのほか、日本語教師や広告代理店などのマスメディアの仕事にも興味を持っています。

高校在学中から国際的な視野を広げることによって、将来の可能性が大きく広がります。皆さんも、ぜひ、積極的に国際交流に参加してみてください。

明桜への留学生 祖父との会話がきっかけで日本に興味
張嘉琪（チョウカキ） さん（留学生：中国 上海市出身）

日本で働いていた祖父から、文化、お祭りのことなどを聞いたことがきっかけで日本に興味を持ちました。中国の外国語中学に入学して、日本語と英語の勉強を始めました。現在も、上海の両親や友人と電話連絡をとって、明桜高校での出来事を話す機会を作っています。来日した頃は、国語の授業についていくのが少し大変でしたが、徐々に慣れてきました。普段の学校生活の中では、クラスの友だちと、学校のことや日本で流行していることなどをよく話しています。

将来は、生まれ育った上海で新聞記者になりたいと思っています。

文学賞10周年　各部門に過去最多の作品の応募がそろう

― 第10回ノースアジア大学文学賞授賞式・記念コンサート開催

11月18日に、本学古田記念講堂を会場として第10回ノースアジア大学文学賞授賞式・記念コンサートを開催しました。

今回の文学賞は、高校生の部門（エッセイの部）、大学生・一般の部門（エッセイの部、短編小説の部）に昨年を上回る612編の作品が国内外から寄せられました。また、10周年を記念して「第10回記念特別賞」を高校生の部門、大学生・一般の部門エッセイ部，短編小説の部にそれぞれ設けました。

授賞式では、各部門の受賞者の表彰を行い、選考委員の柴田翔先生、内館牧子先生、石川好先生から講評をいただきました。

その中で内館先生は「タイトルもそうですが、エピソードをたくさん詰め込みすぎているんですね。いい話がいっぱいあって捨てきれないということは分かるのですが、詰め込みすぎて花がいっぱい咲いてしまい、どれも印象に残らない。これはもったいないなと思います。内容もタイトルも、詰め込みすぎはだめですから、自分で削る作業をやってみてください」と講評の中で話しました。

式終了後には記念コンサートを開催。今年は、井川町立井川中学校吹奏楽部の皆さんを招待し、演奏いただきました。コンサートの最後には、ノースアジア大学吹奏楽部・明桜高校吹奏楽部と同中吹奏楽部による合同ステージで受賞者を祝福しました。

受賞者紹介

高校生の部門（エッセイの部）

- ◆第10回記念特別賞…「私らしく」　菅原千里さん（秋田市）
- ◆最優秀賞……「ページを広げる、世界が広がる」　原田悠加さん（東京都）
- ◆優秀賞……「書道との出合い」　小河原龍也さん（秋田市）
- ◆優秀賞……「これからの方言」　能味佑輔さん（秋田市）
- ◆優秀賞……「私の祖母」　古村詩乃さん（秋田市）
- ◆優秀賞……「幸せを運ぶ食卓」　清水優奈（秋田市）
- ◆優秀賞……「私にとっての敵は」　矢嶋瞳（秋田市）
- ◆内館牧子特別賞……「祖母と笑うこと」　菅原真理亜（秋田市）
- ◆石川好特別賞……「異国の地を踏んで」　佐藤千歌（秋田市）

大学生・一般の部門（エッセイの部）（※筆名）

- ◆第10回記念特別賞…「カトレア」　那智勝さん※（和歌山県）
- ◆最優秀賞……「我が父へ捧ぐエッセイ」　感王寺美智子さん（熊本県）
- ◆優秀賞……「マリア観音を探して」　石山敦子さん（東京都）
- ◆優秀賞……「復活の包丁」　海藤敏雄さん（東京都）
- ◆優秀賞……「「あかね」と「よしろう」」　櫻川ふみさん※（徳島県）
- ◆優秀賞……「逃げ場のない場所へ」　中西令子さん（モンゴル国）
- ◆優秀賞……「ペットのウナギ」　菱川町子さん（愛知県）
- ◆優秀賞……「田道間守」　八代穣さん（茨城県）
- ◆内館牧子特別賞……「無花果」　佐藤茂男さん（福島県）
- ◆石川好特別賞……「高清水公園の五輪塔」　地主泰子さん（秋田県）

大学生・一般の部門（短編小説の部）

- ◆10回記念特別賞……「ツアー・老人と海」　出雲弘紀さん（大阪府）
- ◆最優秀賞……「車窓」　東海林雄一さん（埼玉県）
- ◆優秀賞……「特等席」　加藤順さん（東京都）
- ◆柴田翔特別賞……「ベスト・パートナー」　小川敢多さん（秋田県）
- ◆内館牧子特別賞……「追ってくる月」　宿里亮さん（鹿児島県）
- ◆石川好特別賞……「車窓」　東海林雄一さん（埼玉県）

行事ピックアップ

看護福祉大

学生の彩り華やかに

― 大学祭開催

10月14日と15日の両日、秋田看護福祉大学大学祭を開催しました。

今回は「彩～colorful～魅せる私たちの色」をテーマに、「地元高校との連携」「地域との交流」「学内の協調」を目的に行いました。

1日目は、オープンニングセレモニーでの大館曲げわっぱ太鼓による演奏を皮切りに、大館鳳鳴高校書道部による書道パフォーマンス、小坂高校・鳳翔華によるよさこい演舞など、素晴らしい演技・演奏を披露していただきました。

また、福祉学科特別講演会では、八郎潟町立八郎潟中学校教諭の三戸学氏をお招きし「ひとりひとりのマイ・ベクトル－共助から始まる多様性な社会－」をテーマにご自身がこれまでに体験したことをお話しいただきました。

さらに「世界から見た日本」をテーマに国際交流シンポジウムを開催。シンポジストとしてノースアジア大学の三浦薫国際センター副センター長とデファルコ・リーアアン准教授、看護福祉大学の教員3名が自身の体験と併せてコメントをしました。参加した学生たちは、普段聴くことのできない外部の講師による講演や学園内教員を含めたシンポジウムに刺激を受けた様子でした。

2日目は、学生が参加している本学機能別消防団と大館市消防本部による防災イベントや、明桜高校吹奏楽部の演奏とチアリーディング部の演技などの催し物がありました。

防災イベントでは、防災用品の展示ブース脇に設けた応急救護所内で午前中2回、応急救護訓練を実施。参加した学生が救護者、負傷者の役割で応急救護を行いました。また、8月の甲子園大会を沸かせた明桜高校吹奏楽部の息のあった演奏とチアリーディングの華麗なダンスは、来場者と一体となって大いに盛り上がりました。

このほか、看護・福祉両学科の学生による研究発表会や各サークルによる活動成果の発表があり、後夜祭を含めた2日間の大学祭は、大盛況のまま終了することができました。

ノースアジア大

学生の研究成果発表で第1位と第2位

― 東北・北海道経済学生ゼミナール大会

このほど、東北・北海道経済学生ゼミナール大会が行われ、プレゼンテーション部門において、本学のチームが第1位を獲得しました。

同大会には、北海道と東北地域で経済学・経営学・商学を学ぶ大学生が参加して、プレゼンテーション部門と討論部門の2部門で、ゼミナールでの研究の成果を発表します。

今回は、5つの大学から合計21チームが参加。本学は、4つのゼミナールから合計11チームが大会に臨み、そのうち4チームが本選に進みました。本選では、本学の金融論ゼミナール銀行研究班が「地域銀行の合併　―金融庁と公正取引委員会の視点から―」を、同ゼミの地域経済分析班が「自治体病院の効率性とモラルハザード」について調査・研究した成果を発表し、1位、2位に入賞しました。